

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
[編集] 教区基推委広報部

1989. 3. 20号

発行所

熱心に受講するビハラー
研修会(神戸別院で)



「死を前にしたふれあい」

住職・寺族のビハラー研修会

去る二月三日、寒さの厳しい中ビハラー研修会が神戸別院で開催された。今年度より設置されたビハラー推進部と社会福祉推進協議会兵庫支部との合同主催となったこの研修会

には教区内から住職、寺族六十名以上が参加された。講義は推進部委員の増井浄見師より「現況及び問題提起」と題したお話があり、その後本山より研修部長の松村璋道師を迎え「ビ

ハラーについて」との話があった。

その講義に引き続き、委員の柳川真隆氏が司会をされ次のような話し合いとなった。

本山が取り組んでいるビハラー研修会の現況、実践活動に携わるまでの研修の進め方について。我々の町で実際にその活動を行う場合の方法は。

昨年度も教区よりの推薦で六十名のビハラー研修員を募集しましたところ百四十名以上もの申し込みがありみなさまの関心もたかいようであります。

研修員の養成は基本学習と実践学習の二年となつております。初年度は介護のころ、社会福祉、仏教カウンセリング等の基本学習を中心とした研修と実動のホスピスや施設等の医療現場で実践学習を行う。

二年度は医療現場での実践学習を中心とする。その実践学習の具体的事項として、臨床法話、各病室、居室訪問、カウンセリング等をし養成する。

現在三十八カ所の病院、施設に協力を頂いている。個人で地元の病院などに出向いて実践をしようと思っ

てもなかなか上手いかないうちである。そんな時は本山へ言ってもらえば、本山からその町の病院などへの働きかけなどにも協力したい。

ビハラーの名称自体も変えてもつと分かりやすい言葉にしては。

言葉だけを置き換えても内容がどうか、また実践のあるべき姿にどう関わっていくのが大事である。たとえばホスピスという言葉が、その言葉を聞いただけでその内容まで連想することができるよう、ビハラーという言葉は聞いただけでその内容までみなさんに知ってもらえるように我々が努力していきたい、実践することが必要であろう。

ビハラーとは意識ではなくて、死を目前にした人との心のふれあいの実践である。「しっかりとやれよ」と言葉をかけるだけでも何かのささえになるのではないかと、その実践ではないか。すぐにビハラーと言うのではなく、これまでにあるボランティア活動にも積極的に寺院も参加し社会と関わっていく必要があると思ふ………等々。

活発な話し合いがあり午後三時半に解散となった。



満三才四才
五才児の幼児
が百二十人い
る。登園の始
めに小さなや
わらかい手の

ひらを無心に合せて如来様に合掌するこの子達が、やがて成長してゆく社会には受験や進学、豊か過ぎる経済、ありあまる物資、優秀な科学技術と、そんな世の中にいやがうえにも突進せねばならないこの子達。飽食の時代とよばれる今、人々の価値観も多様化してきた。物があれば心身共に豊かに暮らせると信じて、産業の発展にまい進する。今、その事で本当に私たちは、心身共に豊かになつたのだろうか。何を目標に生きるのか。それをええ見失つてしまった様に思われる。宗門がかかえる基幹運動の中で、幼児教育にたずさわる幼稚園、保育園での真宗保育が真の「まことの保育」実践にかかる責務は重大である。理解させる事のむづかしい年代の子供達には、少しでも今の心の中にの様の温いぬくもりを、いつまでも見失わずに成長してほしいと念じてやまない。その事は我々僧侶に課せられた使命でもある。(広瀬照晴)

教区だより 3月

- 1日(水) 教区仏婦連盟常任委員会 10時半
- 2日(木) 常備会 10時半
- 3日(金) 都市開教 講師足利孝之師 阪神北組称名寺 1時半
- 5日(日) 若婦人の集い 講師 河内美舟師(山口教区) 姫路西組本徳寺 10時半
- 6日(月)~7日(火) 教区門徒総代会一泊研修会 神戸、舞子ビラ
- 7日(火) 別院仏婦常例 竹内俊之師(揖東組浄蓮寺) 1時半
- 8日(水) 広報部会 5時
- 9日(木) 青年僧侶の会研修会 武内紹晃師(阪神西組浄専寺) 4時
- 10日(金)~15日(水) ハワイ開教百周年団体参拝

- 13日(日) 教区勤式練習 5時
- 14日(火)~16日(木) 別院常例 応供乗生師(城崎組清蓮寺) 1時半
- 17日(金) 定期教区会 10時半
- 20日(月)~22日(水) 別院彼岸会法要 久堀弘義師(神戸湊組行願寺) 1時半
- 20日(月) 都市開教本部会議 大阪・津村 5時
- 26日(日) 教区仏社常任理事会 10時半
- 26日(日)~28日(火) 教区寺院子弟研修会 京都・山科別院
- 27日(月)~28日(火) 教区仏青研修会 京都・山科別院
- 28日(火) 組長会 10時半
- 29日(水) 教区寺族婦人連続学習会④ 神戸ポートピアホテル 10時
- 30日(木) 近同推、役員会、臨時総会 大阪・津村 10時

女人往生とは：

◆1月27日教区門徒総代会評議員会。三月六日七日の神戸須磨の舞子ビラでの一泊研修会について協議◆28日第一期寺族婦人連続学習会の三回目を神戸別院で開催。女人往生についての話し合いがもたれ、女性差別などについても発言があった。「女人」という言葉に古い時代の響きを感じる。「現代、女性が強くなり五障三従はなくなっている」「檀家の方より、奥様でも結構です。とか儀式は日延べしても住職にして欲しいと言われた」などの意見もあったが中には「寺に嫁がないと聞くが、坊守の素晴らしさをもっと他の人に教えた」と発言された坊守様の力づよい意見が印象的でした。今後の課題として



ももっともとの組の坊守会等で差別の問題についても積極的に研修していきたい。又ビハラーなどにも取り組んでいきたいと確認した◆28日、29日、30日、31日、京都本山近くの旅館洛兆で第三連区の推進員研修協議会。教区の推進員十五人参加、平和

◆30日教区仏婦委員総会を別院で。仏婦三十周年記念大会決算報告と三月五日に開催の若婦人の集いについて◆連研部会にさきに実施の連研実施組実地調査について◆2月1日基推委常任・企画室会議。平成二年十一月七日に開催予定の門信徒総結集大会(仮称)

HIO日記

生前のご苦労を偲び
謹しんで敬弔の意を表します。(敬称略)
出石組極楽寺前坊守
松本 房子 2月3日
神崎組一心寺住職
宿利 惠雲 2月15日
高砂組蓮教寺前住職
松井 順徹 2月18日

の準備などについて◆5日神戸中組教務寺にて推進員研修会。悪人正機のテーマで久堀弘義先生からのお話「あんな悪人でも助かるんですか」と言っているとき、私は善人。悪人とは仏さまの光りに照らされたとき、悪人ではなかったと自覚せしめられた私である……。午後、同じテーマで話し合いと質疑応答をする(写真)◆6日、7日第三連区推進専従員研修会、滋賀県大津市で開催。教区相談員、専従員五人出席。天皇代替りと基幹運動について広川中央相談員より講義機構改革と次年度基幹運動計画について◆7日別院仏婦常例、講師は備後教区より小滝信生師「お若いのにありがたいな」とお同行◆本山阿弥陀堂で九條武子夫人を偲ぶ如月忌法要、教区から仏婦会員二百人以上が参拝◆10日近同推総会を京都洛兆で事業計画、予算、役員改選等について◆14日基推委専門委員会。

寺報やパンフに活用して下さい

お知らせ「法みのり」と題した中の一枚は、法話のページです。それぞれの寺で、寺報なり、パンフレットに活用して下さい。神戸別院ではお彼岸のお参りに配ります。題字の横は寺号が押印できるようにあけてあります。必要部数を申し込んで下さい。(事務局)

連研研究会から

二月二十一日神戸別院で連研研究会が開催された。十時半からの開会式の後参加者五十一人が組連研と同様に四つの車座になり連研における問題点と展望について一時間半の話し合いを持った。

昼食をはさんで各班よりの発表、西池哲俊氏の司会で本山から出向の中央相談員の富永真哉氏、研修部賛事の石田博信氏をまじえて活発な討議となり、山口からお迎えした泉勇哲師の講義が短くなったほどであった。講義の後質疑があり午後三時半閉会した。

話し合いの問題点をひろってみると次のとおり。**連研に関する意見**
◇門徒は連研を願う成果を上げている。
◇連研終了者のアフターケアがなされていない。
◇住職そのものに連研にたいする関心がない。
◇門徒推進員養成との元の意味がボケている。
◇住職、寺族の勉強が必要である。
◇同朋運動が連研の中の一回として受け取られない。
◇同朋運動のプロをつくってはいけない、誰でもが

今一度、連研の見直しを

読本の2つを合冊しては…



自分の思いを話さなくてはいけない。
◇連研との言葉がいけない、推進員養成を名称にされる。
◇教区や本山の担当者として我々連研を実施する者との間にズレがある。
◇中央教修の年令制限を

◇組の基幹運動を進める事に推進員が関わっているか、単に仏婦や仏社の役員となつていないのではないか。
◇昭和五十一年から連研が始まり第六期となるが、その間推進員に対する我々の考え方も教団の運動からの要請もあり、捕らえ方も変わって来ている。

◇同朋読本が出来た背景には、その読本による研修とあり、連研とは別個に進んで来た事に問題があるのでは。元から連研と同朋は別であった。
◇同朋運動と同朋問題を別に考えてはいけない。門信徒会運動も別ではなく、その運動も同朋運動の精神で進んで欲しい。
◇連研や同朋運動について意見交換のできる機会をもっと教区でもって欲しい。連研読本について

◇読本が出来すぎるとかえって扱いにくいのではないか。
◇連研読本の下にメモなど必要でない、あるばかりにこの通りしなければと出る。
◇私達はいつたい連研によって何を育てようとしているのかの再確認が必要。

◇お寺の本堂のことより、もっと檀家のお内仏のことを載せて欲しい。
◇もっと話し合いの出来るテキストとしてはどうか。
◇読本は全面的に改訂すべきであるが、専門的なものかもっと調査し検討をかさねる必要がある。
◇連研読本と同朋読本を一つにしてはどうか。
◇今の連研読本では話し合いに入りにくい、問いの項目を作つて欲しい。
◇読本でなく、本山の連研ノートでやっているが、その関連性がないのはなぜか、十二の問いを読本にも入れてほしい。
◇住職の能力差があらわになった。とアンケートにあるように、全ての住職が消化できる内容としたものを作成しては。
◇改訂というのではなく、今の読本は資料として置いておき別のテキストを作成する。
◇もっと連研終了者や推進員の意見を聞いて、改訂するならば。
◇各組の連研のやり方をもっと調べてからではないと改訂は出来ない。

◇見知らぬ人から質問を受けたことがあります。その一つは「善人ばかりの家庭は争いがたえぬ。悪人ばかりの家庭は争いが無い。」いま一つは「科学はものを見る目、宗教は心を観る眼。仏法を聞くとは、自己を聞くことである」ということでした。
浄土真宗、聖人のみ教えについて、この人らには説明したことでしたが、わかってもらえたでしょうか。私は、今後もっともっと聴聞させていただき真実のみ教えを伝えられるようになりたいと念じております。そして、生かされる身を感じ謝しつつ、次の五項目を生活目標として、お役に立ちたいと願っております。
一、自分で出来る人の世話、何事にも感謝の心を忘れない。
一、人を悪人とせず、自己に原因があると反省する。
一、今、今日、一日を大切に生き、悔いを残さない。
一、損、得を考えない。

よくぞ真宗門徒に感謝の日ぐらし
今、お寺で

私が、連研をして中央教習を終えて、一番に思いましたことは、よくぞ、私の家が浄土真宗の門徒であったことに感謝いたしました。中央教習を受けるまでは、会社などで他宗の方々とともに、宗教について話合う時、私は、わが浄土真宗の教えについて、何も話すことができませんでした。しかし、今は違います。釈尊、宗祖親鸞聖人のみ教えを、話しの中に入れ、少しではありますがありますが、伝道のまねごとができるようになりました。組では、連研のお手伝をさせてもらいながら、ご縁をかきねております。また、中央教習でお誓いした揭示伝道は、住職さんのご指導によりまして今もつづけることができ、がんばっています。揭示伝道で、二回、



神子上恵龍先生を偲んで

龍谷大教授・浄専寺住職 武内 紹晃

昭和十三年、私が龍谷大学に入学したとき、一年生の「修身」を担当されたのが若き日の神子上先生であった。非常に丁寧なノートを作っておられた。先生はお話のとき語尾に「…ネ」とつけられるくせがあった。それが何か非常に親しみを感ずる響きをもっていた。

てから、先生が首を小さく振りながら読経される後姿が、亡くなった父にそっくりであったので、何か心の奥底に安らぎのような気持ちを感じたことである。先生の真宗の講義を受講したことはなかったと思いが、先生の御研究は当時としては非常に広い仏教学的基盤に立った、先生の御性格そのままに正確な論証で組み立てられていた。大分以前の御著作であるが、弥陀身土思想展開史論が真宗の学者だけでなく、大乘仏教の仏身・仏土の研究に今も依用されるのはその一つの証明である。御二人の御息が共に現

在龍谷の教授であるが、先生は子煩悩なお方であったと思う。御長男の恵生氏が私と同じ仏教学専攻であることもあって、留学したり、外国の学会に出席するとき、「外国など行かずにおつてくれればよいのに、やっぱり行かねば駄目なのですかなあ」と子供を気づかう親心を語られたことが二度もあった。その頃私も息子を留学させていたので、その御言葉を身に沁みて感じた。

で、恵生が前席をするから一時間ほど話してくれないか」と電話で依頼されたときが最後であったと思う。一月四日なくなられたとの訃報に接し、御自坊にお伺いしたとき、納棺されるところで、安らかなお顔を拝し、お別れすることが出来た。

いま宗学はいろいろな意味でむずかしい時期である。いつも口ぐせのように教学の重要性を語りつづけた先生は、御本山に見えなくとも、伝統的な宗学を現代に進展しようとする方には大きな心の支えであったと思う。どうか浄邦からいつまでも宗学の進展を見守

私が先生に特別親しみを おぼえたのは、御年をめし

一つは「自分は体がよくないの

つて頂きたいと思う。

本問題「教行信証概観」歎異抄講義」など。嗣子は神子上恵生・龍谷大教授。

編集 東組浄蓮寺門徒 白井 孟

法

みのり

何迷う人ばかり

お彼岸に思うこと

まつしま 松島 ほうじょう 法城



長い冬が終り、立春、啓蟄もすぎ春のお彼岸を迎えたり、朝夕涼しさを感じるようになった秋のお彼岸ともなりますと、どのご宗旨の方でも、平素仏教にさほど心をよせているとは思えないのに、お寺にお参りをしたり、お墓へお参りをしている姿を多く見かけます。しかし、このようなお彼岸の仏事は、かつて仏教の興隆したインドにも、仏教の盛んであった中国にもない、日本のみの仏教的風習であるそうです。

年間わが国では、「元旦」や「みどりの日」をふくめて、祝日が十三日あり、そのうち仏教行事を起因とした「春分の日」「秋分の日」と二日も入っていることから見ても、このお彼岸というものが、夏の盂蘭盆会とともに、いかに日本民族の生活にとけこんでいるかわかります。

さて、このお彼岸における仏事の起こりは、今から約千二百年前にさかのぼります。桓武天皇の側近であった、中納言藤原種継が、その政敵である大伴、佐伯の両一族に暗殺された事件で、桓武天皇の弟君で皇太子でもあった、早良親王にも、その罪ありとして、親

王は罪なくして淡路へ配流されたことを憤り、自ら飲食を断つてお亡くなりになられました。しかし、ちよどそのころ、桓武天皇の御子、安殿親王が重いご病氣になられた上に、全国に疫病が大流行し、世の中が騒然となったことなどもあり、これは、早良親王の崇りであらうとされ、亡き親王に崇道天皇を追号申し上げ、その霊をお慰めるために、全国の国分寺に、春秋の二季、追善の法会を修行するよう、お命じなされたことに始まったのです。

この死者の崇りをおそれての御霊鎮めの行事が、彼岸会といわれるようになったのは、この法会で読誦されましたお経が『能断金剛般若波羅蜜多経』でした。この「波羅蜜多」は「到彼岸」と翻訳され、またこのお経を注釈されたのが、龍樹菩薩さまの『大智度論』です。

親鸞聖人のご和讃の中、高僧和讃の第一首目（浄土真宗聖典註釈版578ページ）に
本師龍樹菩薩は
智度、十住毘婆娑等
つくりておほく西をほめ
すすめて念仏せしめたり
の「智度」といわれたお聖教です。

このお聖教の中に「生死を此岸とし、涅槃を彼岸とす」とお示し下さり、「無量寿経」に「一切の善本はみな彼岸に度す」〔註釈版7ページ〕「慧眼は真を見てよく彼岸に度す」〔註釈版50ページ〕「一乗を究竟して彼岸に至らしむ」〔註釈版51ページ〕と説かれてあります。これらを通じて味わさせていただきますと、如来さまのお導きによって、迷いの娑婆の此岸から、お浄土の彼岸に到るみ教えにあわせていただくことから、この法会を初め、この時期に勤められる法会を彼岸会とよばれるようになったと思われまます。

私達凡夫は、それぞれ毎日の仕事に追われ、なかなか、仏にならさせていたただくための努力をしたり、お寺にお参りして、心静かに法話に耳をかたむけることが容易ではありません。それだけに、せめて春秋の気候のよいこの七日間のうちに、さまざまなお事が行われるようになり、まるで仏教の間のようになっております。

親鸞聖人の曾孫の覚如上人が、『改邪鈔』第十一章（註釈版929ページ）に浄土真宗の僧俗の、お彼岸に対する心構えをお示しになつて

おられます。それによりますと、善根を起こせば、お浄土に参り、悪業を起こせば地獄に落ちると聞いて、この時期に限って特別に後生を願つたり、ご先祖のお墓にお参りをしたりして、形のみのお彼岸を送る人が多いのですが、このようなことのみを心をうばわれるのでなく「仏法疎遠の私をして、仏さまよりの衆生済度のまたたないご縁とさせていただき、み仏の願力不思議の御計らいによって、信心の行者には行住坐臥をえらばず、凡夫の私が彼岸（お浄土）に到ることを喜ばせていただく思いから、この春秋の二季に限ることなく、仏恩報謝のお念仏を相續出来る身にさせていたただかねば、親鸞聖人の御一流にそむくことである」との意味が指南されてあります。

江戸中期の俳人、鬼貫の句に、
「何迷う、彼岸の入り日
人ばかり」

というのがあります。この句のよう、に、ややもすれば風情におし流され、弱く罪多い日ぐらしにあけくされる私達が、さまざまに思い迷い、何かを求め、災難よけのための、お彼岸の寺参りとするのでなく、親鸞聖人のご一流にあわせていただく私達は、み仏のお慈悲の中での日ぐらしであることに思いをはしらせ、改めて仏恩の深きを喜ばせていただく日としての、お彼岸であると味わいたく思います。
(多紀組・専福寺)

命を見つめる 木の命を 土の命を 人の命を

Look closely at life,
the life of a tree, the life of the earth,
the life of human beings.



花の志々丸 (高岡市)

3 1989 平成元年

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

命その輝きと尊さ

ますい じょうけん
増井 浄見

命という言葉の響きは『生命』と『いのち』の二つある。最近、宗門では『いのち』を多く用いており、あえてここでは『命』を用いるが、その意図は法語との関係からであることを最初におこわりしたい。

樹木は大地に根をおろし、その命をまっすぐに伸ばして、幹と枝と葉を友として、生きとし生けるものすべてに四季を教えてくれる。土は目にこそ見えないが、ぬくもりとかおりを自らの広く深い命として、すべてのものにつながりを教えてくれる。

人は自らの命を見ることなく、ただ他人の命の誕生と終末を氣遣っている。と言ってみると、いささか下手な詩情に浸っているようだが、結局のところ、人は命の尊さ大切さを余り問題とせず、自然の樹木や大地を破壊することしか頭にないのであるから、相当質の悪いものであることになる。ビハール活動の観点から命を語るならば、命を見つめることは、命を看とると言いかえられる。『看』の字は『手』と『目』からつく

られている。ちなみに命という字は『口』と『令』からつくられた字のようであり、元来は王者が号令を発して人民を使うという意味のようである。看とるとは、何もしないでじっとみているのでなく、手をふれ、同じ目の高さで患者さんと接することである。このごろ命が見えなくなつたといわれるが、果して命は見えておつたのだろうか、いや見えるのだろうかと考えると目もうすくなくなり、耳も聞えにくくなる。それ故

(赤穂北組・浄蓮寺)

お仏壇・お仏具のお求めは、創業180余年の浜屋へ



大切にしたい日本の心

くらし
やすらぎのある生活
浜屋の願いです。



- 堺店 電話 61-2211 代
- 鳳中環前店 電話 51-2211 代
- 堺中環前店 電話 54-2211 代
- 藤井店 電話 699-2211 代
- 駒布川店 電話 783-2211 代
- 住道店 電話 74-8116 代
- 高槻店 電話 29-2211 代
- 高槻店 電話 83-2211 代
- 江池店 電話 22-2211 代
- 伊丹店 電話 388-2211 代
- 伊丹店 電話 53-2211 代
- 西神店 電話 75-2211 代
- 新長田店 電話 413-2211 代
- 新長田店 電話 51-2211 代
- 新長田店 電話 371-2211 代
- 新長田店 電話 621-2211 代
- 新長田店 電話 37-2211 代
- 高野店 電話 26-2211 代
- 高野店 電話 43-2211 代
- 高野店 電話 82-2211 代
- 高野店 電話 76-1316 代
- 高野店 電話 5-5171 代
- 高野店 電話 5-2011 代
- 高野店 電話 93-2211 代
- 大阪商品センター 電話 906-5511 代
- 大阪商品センター 電話 97-2211 代
- 寺院工部部 電話 22-2211 代
- 大阪商品センター 電話 61-2211 代
- 大阪商品センター 電話 51-2211 代
- 大阪商品センター 電話 54-2211 代
- 大阪商品センター 電話 699-2211 代
- 大阪商品センター 電話 783-2211 代
- 大阪商品センター 電話 74-8116 代
- 大阪商品センター 電話 29-2211 代
- 大阪商品センター 電話 83-2211 代
- 大阪商品センター 電話 22-2211 代
- 大阪商品センター 電話 388-2211 代
- 大阪商品センター 電話 53-2211 代
- 大阪商品センター 電話 75-2211 代
- 大阪商品センター 電話 413-2211 代
- 大阪商品センター 電話 51-2211 代
- 大阪商品センター 電話 371-2211 代
- 大阪商品センター 電話 621-2211 代
- 大阪商品センター 電話 37-2211 代
- 大阪商品センター 電話 26-2211 代
- 大阪商品センター 電話 43-2211 代
- 大阪商品センター 電話 82-2211 代
- 大阪商品センター 電話 76-1316 代
- 大阪商品センター 電話 5-5171 代
- 大阪商品センター 電話 5-2011 代
- 大阪商品センター 電話 93-2211 代
- 大阪商品センター 電話 906-5511 代
- 大阪商品センター 電話 97-2211 代
- 大阪商品センター 電話 22-2211 代